

平成31年度第1回白井市まち・ひと・しごと創生審議会

議事概要

日時：令和元年6月6日（木）午前9時30分～正午

場所：白井市役所本庁舎2階災害対策本部2

出席者：【委員】

高尾 公矢会長、山田 壽一副会長、伊藤 治委員、小川 松雄委員、
染谷 敏夫委員、菅野 友博委員、窪田 若菜委員、須田 緑委員

【事務局】

中村企画財政部長、永井企画政策課長、富田主査、迎主査補

産業振興課：川村課長、佐山主任主事が同席

傍聴者 5名

1 開会

2 委嘱状交付式

(1) 委嘱状交付

まち・ひと・しごと創生審議会委員へ笠井市長から委嘱状を交付した。

(任期：令和元年6月6日～令和4年6月5日)

(2) 市長挨拶

【市長】

皆さんおはようございます。本日は、会議に出席いただきましてありがとうございます。また、まち・ひと・しごと創生審議会の委員を引き受けていただきまして、重ねて御礼を申し上げます。

我が国では人口減少、超高齢化という大きな課題に現在直面しており、8年連続で人口が減少しています。高齢化率にしますと、近々のデータでは27.7%、4人に1人以上は高齢者という状況でございます。白井市におきましても、令和2年をピークに、人口減少が始まると予想しています。高齢化率にしましても、現在では25.8%。国よりも約2ポイント低いのですが、今後、急速な高齢化が予想されます。

人口減少は、地域経済の縮小や生活サービスの低下をもたらし、このことからさらなる人口減少をもたらすという負のスパイラルが懸念される中、国では活力ある日本社会の維持に向けて、まち・ひと・しごと創生法を制定し、地方に仕事をつくり、人を呼び込み、まちを活性化する、いわゆる地方創生の取組を進めているところでございます。そして、全国の市町村においても、それぞれの地域の特性を踏まえながら地方創生の取組を進めており、白井市では平成27年度から、まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づいて取組

んでいるところでございます。

私は、今後の人口減少をもたらすさまざまな影響というものを打破して、魅力あふれる白井を次の世代に残すために、白井の強み、魅力というものを十分に伸ばしながら、これまでの地方創生の取組とともに、新たな発想により、さらに発展をさせていきたいと考えてございます。そのためには、市民や事業者、行政の力を一つにまとめながら、白井をもっと豊かにして、実効性の高い総合戦略をつくり、スピーディーかつ中長期的な視点により取組を進めることが大変重要であるというふうに認識をしているところでございます。

今後、この審議会において、総合戦略の策定について審議をいただくこととなりますが、委員の皆様には、さまざまな経験や専門的な知見に基づきまして、貴重なご意見をいただきたいと思っておりますので、ご指導、ご協力をお願い申し上げ、簡単でございますが、私の挨拶といたします。どうぞよろしくお願いいたします。

3 平成31年度第1回審議会

(1) 会長・副会長の選任について

会長及び副会長は、白井市附属機関条例第3条の規定により、委員の互選により選出することと定めており、委員からの推薦により、会長は高尾公矢委員が選出された。また、高尾会長からの推薦により副会長は山田壽一委員が選出された。

(2) まち・ひと・しごと創生法とまち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について

【会長】

まち・ひと・しごと創生法とまち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料に沿って説明

【会長】

それでは、総合戦略の概要について、事務局から説明がありましたけれども、何かご質問、ご意見がありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

第1期の白井市まち・ひと・しごと創生総合戦略ではある程度の方向性が出たと思うのですが、それが上位の規定である総合計画に反映されているのかどうかということがまずあると思います。

総合計画に反映されていれば、総合計画でこれは問題だから、もう一度差し戻しということもあってもいいような気がしました。

次に、人口の問題なのですが、一人の女性が平均で2.07人を生まないとその人口が維持できないというのがあるのですが、白井市がはたしてどれだけの人口を希望しているの

しょうか。インフラ等も含めて何千人、何万人の人口がいるという想定があって、そのために、いかに人口を増やしていくかと考えているのでしょうか。

ただ、人口を増やし過ぎてインフラが追いつかないと、また問題でしょうから。白井市の総合計画として望むところの何年にどのぐらいの人口が必要だと考えていますか。

また、出生率なのですが、1.8とか1.9というところですが、これは2.0があれば必ず人口が増えるかという、「未来の年表」という本の中にも、今後子供を生む女性の数がそもそも減っていくのだから、生む人が少ないのに2としても、人口が増えなくて、反対に減るといふくだりもありますので、そうすると、この合計特殊出生率だけを上げれば、人口が増えるというわけでもないようですので、ここのところは戦略的にどうするのかということも今後考えなければいけないかと思います。数字に踊らされると方向性が違ってしまふような気がしています。

次は、ポータルサイトの部門、白井市の梨のところですか。まず白井市を知るため、梨という産業を知らせるためのホームページを開設されたと思い、それを拝見したのですが、字が小さくて見えないとか、背景がよく見えないというところもありました。またそのアクセス数が今どのぐらいの状況かということも含めて、少なければ掲示する意味もないでしょうし。いかにしてアクセス数を増やすかということを考えていかなければいけないというものもあるでしょう。

また、ホームページでは、つくられた方の写真が載っているものと載っていないものがあるので、そここのところは宣伝するためには、人が見えれば、顔が見えれば安心して購入するというものも出てくると思いますので、載せていないものは、もちろん提供する人の考え方もあるでしょうが。買い手としては、安心して買えるためにはポータルサイトを今後どのように活用するのでしょうか。

最後に、最近Society5.0という言葉が出てくるように、狩猟社会から農耕、工業、情報化社会の新たな方向として、サイバーとフィジカル空間との融合で新たな方向をつくるというものが、今Society5.0として出てきますので、白井市としては、仮想と現実をどのように融合していくのか。そのために、このまち・ひと・しごと創生としては、どの部分に関わっていくのかということも考えておかなければいけないというところがありました。

【事務局】

1点目が、総合計画との関係というようなお話かと思います。資料の3-2をご覧ください。

簡単に申し上げますと、総合計画と総合戦略というのは密接に関連していて、同時並行で進めていくようなものです。総合計画は市の最上位計画として位置づけられ、長期的な展望から総合的かつ計画的な行政運営を図るための基本となるもので、今後のまちづくりの基本的な指針となるものという位置づけです。

それに対して、まち・ひと・しごと創生総合戦略は国の法律、まち・ひと・しごと創生

法に基づいて、地方創生に特化した施策が定められているものです。

その下の、図示したのですが、左の総合計画の矢印が総合戦略に向いているかと思えます。総合計画の基本計画や、実施計画が整合性を確保しながら総合戦略のほうに反映されているというような位置づけになっております。

【委員】

資料の3-1の1ページ目の2で、総合戦略との兼ね合いがここに載っているのですが、この構成と期間を見ると、既に第1次まち・ひと・しごと創生総合戦略が終わっていて、それが前期基本計画のところで関わってくるのですが、第1次戦略で出したものが、基本計画の中にもう既に取り入れられているのか、または、それは取り入れられなくて、後期基本計画の中で反映させていこうとするのか、そのところはどのようなのですか。

【事務局】

まち・ひと・しごと総合戦略の冊子をお配りしているかと思うのですが、50ページをご覧くださいと思います。

基本目標ということで、先ほどから説明している四つの基本目標が上の段に書いてあります。下の段を見ていただきますと、一番左に国の総合戦略の基本目標、真ん中に白井市のまち・ひと・しごと総合戦略の基本目標、右側に、今日冊子でお配りしている第5次総合計画の方向性ということで、その三つがどのように兼ね合っているかというのを図示したのになります。

右の第5次総合計画については、三つの重点戦略というのを持っておりまして、一つが若い世代定住プロジェクト、二つ目がみどり活用プロジェクト、三つ目が拠点創造プロジェクトということで、あと、その他にもまちづくりの進め方として、情報共有ですとか、財政運営だとかいろいろな項目があるのですが、それらがどのように総合戦略に落ちているかというのが、この表で図示しているところでございます。

例えばで申しますと、第5次総合計画の一番上の段、若い世代定住プロジェクトというのは、まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標の一つ目、若い世代が定住するまちづくりですとか、産業が活力を生み出すまちづくりですとか、そういうところとリンクしてきているというのを図示したのになっております。基本的には、総合計画と総合戦略というのは密接に関係しておりますので、方向性としてはそれぞれ一致しているということになります。

2点目のご質問については、白井市がどれだけの人口規模を目指していくのかということだったと思います。資料1の4ページ目をご覧ください。

グラフが左側にあるかと思えます。人口の将来展望というものです。そちらの四角でつないだ2060年に5万5,500人というような人口を目指しているというご回答になります。

【委員】

総合戦略の34ページで、平成37年は目標人口6万5,500人を達成できる見込みというのは、これは平成72年が5万5,500人なのに、その40年前で6万5,500人が達成されちゃうのですか。この数字、意味がわからなかったです。

【事務局】

まず、この第5次総合計画の冊子のほうをご覧くださいてもよろしいですか。これが市の最上位の計画になります。この総合計画とここでやっているまち・ひと・しごと創生総合戦略というのが密接な関係をしてくるのですが、総合計画の23ページをお開きください。

ここで将来人口の見通しというものを示しております。白井市の場合、千葉ニュータウン事業等で一貫して人口というのは増加してきているのですけれども、平成32年、令和2年ということになるのですが、6万5,500人を達成した後、平成37年には6万5,200人ということで、平成32年、来年度をピークに人口減少に陥っていくということが見込まれております。

24ページを見ていただいて、そのまま行くと人口というのは減っていくという見込みになるのですけれども、まち・ひと・しごと創生総合戦略ですとか、総合計画に掲げた三つの重点戦略を進めることによって、平成37年度、令和7年度にもピーク時である6万5,500人を達成しようというのを総合計画のほうで目標値として掲げているところです。

また、総合戦略の取組を進めることによって、平成37年度には基本構想のこの目標値も達成できますよというのをこの総合戦略のほうでもお示ししているという関係になっております。

なお、その後は、人口減少というのはなかなか避けられないということがありますので、平成72年には5万5,500人を維持しようということで現在取り組んでいるということになります。

【委員】

37年の6万5,500人が達成された、それを維持していこうというのであっても、自然減少するからしょうがないのです。72年の5万5,500人は維持したいということですね。

約1万人減少はもう避けられないから、なるべくそれを減らさないようにしようということを考えるということですよ。

【事務局】

日本全体で人口が減っていきますので、白井市だけ人口を維持できるというのはなかなか難しいと思いますので、減少幅を減らすという方向で考えています。

三つ目については、梨のポータルサイトの件で。そちらについては、この後、担当課のほうで交付金の関係で来ますので、そのときにお話しさせていただければと思います。

【会長】

よろしいですか。総合戦略の概要、事務局が説明したものについて、先ほどの2点は説

明してもらったわけですがけれども、他に何かご質問ありましたら、お願いしたいと思います。

大体、合計特殊出生率を国が1.8と言っていること自体が無理があると。今、全国では1.43ですか。だから、これを上げるというのは大変な努力です。人口で言いますと、今、出生数というのは92万人ですよ。そうすると、恐らく近いうちに90万人を切るのではないかというふうに言われています。90万人を切ったら大変なことです。大学なんかは半分ぐらい潰れるということも言われています。

だから、今、国の総合戦略で言っていることは、都内の大学の入学者を定員の1.1倍まで抑制することをやっているのです。都内の大学は大変ですよ。経営的にも大変だと思いますし、それから学力が都内の大学はぐっと上がったのです。ものすごくレベルが上がったのです。例えば早稲田、慶應なんかは今、入れないですよ。昔は入れた人が去年あたりから入れないです。非常に難しくなってきました。周辺が潤うかといったら、余り潤っていない。ということが起こってきています。とにかく抑制するという、そういう形では効果がでてきているのです。そうすると、地方にそういう人がとどまるかどうか。人口自体は首都圏に集中しているわけですから、この辺は難しいです。

概要につきましては、よろしいでしょうか。

【事務局】

先ほど委員から質問いただいていた件で、漏れていた部分があったかと思います。

一つは、人口が減っていく中で、インフラの維持関係について、どのように考えているのかという概要です。総合計画冊子の25ページをお開きいただきたいのですが、こちらが将来都市構造図です。隣のページで示しているように、目標人口65,500人を目指すのと合わせて、将来の都市構造についても考えています。

あとは、この審議会等の中で皆様の専門の知識等をお借りして、インフラ関係についても今後どうしていけばいいか、一緒に考えていければいいかと思っています。

【会長】

要するに人口を増やすためには、よそから人口を呼び込むことが重要で、環境整備も考えていかなければならないということですね。

【事務局】

もう一点、出生率の目標を定めたとしても、出生数が伸びないので、人口は減っていくことに対してどう考えるかということでした。資料1の2ページの右側のグラフがあるのですが、こちらの太い実線が総合戦略を行った場合の人口の推移です。国全体としても、目標出生率を定めているにもかかわらず、人口は減るということはやむを得ないこととしています。

ただ、減り続けられないために、グラフが最終的には横に伸びていく、維持していくことで、人口構造、バランスをよりよい状態に持っていくということを観点として持っています。

市もそれに倣った形で考えているということです。

【委員】

人口を維持するためには、最低 2.07 が必要です。それ以上でなければ、どんどん減り続けるのではないのでしょうか。目標値は最低でも 2 くらいないと人口を維持できなくなります。市の人口ビジョンの 1.8 とか 1.9 だと絶対に減少してしまう気がしますが。

【会長】

出生率だけを考えるとそうなります。2.07 以上ないと現在の人口は維持できない。それだけでなく、呼び込むということをやらないといけないですよ。

【事務局】

白井市は国・県・周辺と比べても、出生率は 1.28 と国の 1.43 と比べて低いのが現状です。では、子供が少ないかということ、27 年国勢調査人口によると、15 歳未満人口比率は県内で 1 番高い。むしろ、子供が多い状況です。なぜかということ、白井市の場合、20 歳代は就職等で転出してしまう傾向にあります。30、40 歳代は、住宅購入等をきっかけに、白井市に転入してきます。比較的小さいお子さんがいる家庭が転入してきます。出生率 2.07 を白井市で達成するかということ、環境面を考えると難しい部分がありますが、外から来てもらう、呼び込むことで、人口維持できるように考えていきたいということです。

(3) 地方創生推進交付金と平成 30 年度地方創生推進交付金事業の効果検証について

【会長】

それでは、議題の 3 に移りたいと思います。

地方創生推進交付金と平成 30 年度地方創生推進交付金事業の効果検証について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料に沿って説明

【会長】

それでは、三つの視点で審議をお願いしたいということが事務局からもありましたけれども、もう一度確認しておきますと、K P I の達成状況についてということです。2 番目は、事業は有効であるか否かという点です。3 番目は、事業のよい点、悪い点、つまり改善していく点があれば、どういうふうにしていけばいいかということも含めて、三つの視点で審議いただきたいと思います。

それで、各個人の意見を出し合ってもらっていいのですけれども、最終的にはこのシート 7 のところで審議会の意見としてまとめる必要がありますので、その点ご留意いただきたいと思います。それでは、よろしく願いいたします。いかがでしょうか。

【事務局】

先ほど委員から質問をいただいていたポータルサイトの件で、担当課がいますので、答えさせていただきたいと思います。

【産業振興課】

ポータルサイトについて、字が小さくて背景の色のせいか見づらいというご指摘をいただいております。現在では市の梨業組合と観光組合が共同で年間の維持管理費を支出している状態になります。それを受けて、ポータルサイトのメンテナンスをやっておりますので、これらの視点をいただいたことを報告しまして、対応していければと考えております。

もう一点は、アクセス数ということですが、ホームページへのアクセス数ですが、5月31日現在で、7万2,700件となっております。

それと、もう一点いただいておりますのが、農家の写真、経営者の顔写真があるところとないところがあるというところで、顔が見えるほうが安心感があるというご指摘ですが、こちらは経営者それぞれ意見を持っているところですが、なかなか経営者の中でも表に出たがらないというような現状はございます。そういった意見があったという旨は伝えることが一つと、担当課のほうでも、もともとそういった顔とか、梨農家さんの特徴が出せるような記事にしたほうがいいですよという願いはしていますが、その辺はおいおい更新をしていく中で改正できたらと思っております。

【委員】

7万2,700件というのは、いつからの数字ですか。

【産業振興課】

開設当初からなので、去年の7月24日からです。

【委員】

これは、他の市の梨関係のサイトと比べて多いか少ないかと比較しておかないと、これは少ないならもう少し変えなければいけないだろうしということはあると思うのですが、その点は検討したほうがいいと思います。

【産業振興課】

できたら月ごとにアクセス数も把握していく中で、そういった傾向があるのかとか、これから年間アクセス数もあると思います。あとは、他市のホームページとの比較等もしていく中で、そういった多いか少ないかという検討もしていきたいと考えております。

【委員】

ホームページを見ますと、梨を使った料理等の説明とかないと思うのですけれども、何かあるのですか。甘く煮てとか、何かにしようとか、そういう案内みたいなものは。

【産業振興課】

昨年度、伝説の家政婦という方でメディアのほうで有名な方と聞いておりますが、タサン志麻さんという方が、白井市の梨を利用したフランス料理を考えていただきました。

メニューとしては、豚肉の赤ワイン煮に梨が入っているものと、あと梨を細かく刻んで

サラダに入れたようなメニュー、あと、リングフライと言って、梨をパイナップルみたいに丸い状態で切って芯を抜いて、そこに肉を巻きつけて、それをフライにして揚げたというようなメニューとあわせて自然薯のメニューも2点か3点ぐらい考えていただいたのですけれども、そちらのほうはホームページに公開しているところです。

それを梨のポータルサイトにもこういった検討をしていただきましたという記事は掲載してございます。

【会長】

それでは、審議をお願いしたいと思います。3点につきまして、ご意見をお伺いしたいと思います。

【委員】

まずブランド力の弱さという、自分でそういうふうに言っているというのがよくわからないのです。まず、なぜブランド力が弱いというふうにここでしているのか。価格が他よりも低いとか、売れ残るとか、そういうことであればブランド力がないということになるのですけれども、売れ残ったということは聞いたこともないですし、価格が他よりも安いというの聞いたこともない。それなのに、なぜブランド力が弱いと定義しているのか。

それともう一点、いろいろなイベントをやっていますけれども、イベントで出した以上は、その効果を見なければいけない。効果を見ているのですか。こういうイベントよりも、大手百貨店とかスーパーとか営業に行行って売り込む、この努力のほうの方が大事だと思います。イベントに出るのは簡単ですけれども、その効果と大手百貨店に行行って売り込んで、その成果と、どちらが高いですか。その辺の違いです。イベントを今までやってきましたけれども、そうではなくて、自ら営業しているのですかということを知りたい。

【会長】

その視点は非常に重要です。他にご意見ありましたらお願いしたいと思いますが、どうですか。

【委員】

ポータルサイトについて、加えてよろしいでしょうか。私も拝見させていただいたのですけれども、非常によい点としましては、農家の方の顔が見えたりですとか、白井市のお勧めのお店が載っていたりということもありまして、ホームページとしてはすごく出来がいいと思うのですけれども、拝見したところ、情報が30年度でとまっています、今、令和元年になっていますので、ああいうインターネットの情報ですと、情報が古過ぎると誰も見ないと思うのですけれども。例えばホームページをどこかに誘導するSNSですとかフェイスブックですとか、そういう取組はなされていないのでしょうか。

市民の中でも知っている人って少ないと思うのですけれども、市民も検索できない状態にあるのに、外部の人がどうやって検索するのかなと疑問に思いまして。ホームページとしてはすごく出来がいいのですけれども、そこに誘導しないと誰も見てくれないうし、

そこから商売が発展しないと思いますけれども。

【産業振興課】

ブランド力が弱いということを自称していることですが、おっしゃるとおり、梨が売れ残るとかそういったことはほぼないのですけれども、それはどこかの市場というか、自治体と比べると弱いというところが一つであろうかと思えます。

ターゲットとすると、例えば市川が有名なのですけれども、あとは船橋市とか、それはキャラクターの影響もあって有名になったというところがあって、市場出荷の中では、白井市の梨というのはすごいブランド力を持っているところはあるのですが、知名度としては、千葉の梨という形で一くりにされてしまっているというところがあります。その辺の対応を今回、ブランド化推進計画の中で定めており、地道に売り込みをしていくしかないのではないかと考えています。

あと、イベントの効果ということですが、歌舞伎座で代表的なところはありますが、昨年度さまざまなイベント、または売り込みをしております。梨の試食会では、白井駅というのは結構定着しているのですが、その他柏駅で2回ほどやっております。築地市場でのPR、また大田市場でのPRというのは例年やっております。あと、友好交流都市のただな太鼓まつり、福島でのPRと、レイソルホームタウンでも例年やっているところです。あと、印西市のイオンの中で梨の即売を2日間ほどPRして売ったというところだとか、千葉の県庁前の通りのまだあ〜る千葉というショップがあって、そちらでもPRしたという経緯があります。

また、売り込みではないのですけれども、電車の北総線の沿線で駅の構内にポスターを張るとか、あと電車の中吊りにPRをするというようなところもやっていました。

【委員】

ブランド力の弱さ、千葉県の梨ということで一くりになっているからということだけでも、白井の梨として、千葉県では特異な別の箱をつくって白井だけが出荷している。これはやっていますよね。一くりになっていないですよ。あとは市川と比較しますけれども、市川との比較で、白井は何が劣るのですか。そこの分析をして、市川と同等にやるといったら、市川以上のことをやればいい。ただ単に、イベントに出ているからブランド力が高くなるなんてないし、そういった努力もまずこの指標で読み取れるかどうか。イベントに対して、ここに出ました、その後の効果は何年続けて、どれだけの量がさばけているのですよと。その効果が見えていないのです。ただやっているだけ。であれば、営業をかけて、このお店とは取り引きができました、何社と取り引きができました、この効果のほうがはるかに高い。イベントはやっていいです。やっていいのですけれども、ブランド力を高めるため、売り上げを上げるための効果ではないです。効果は営業です。何社と取り引きするか。そこの努力をまずしたほうがいいのではないかと。そこに指標を持っていくのじゃないですか。

それと、先ほど説明の中で、九州産とぶつかったから単価が下がったとありました。九州産とほとんど同じ単価ですよ。九州より低いわけじゃないですよ。なぜブランド力が下がったか。早出の九州産と同等の立場で同じ時期に売れた。それは高いのです。茨城産はその後ですから、もっと低くなるわけですよ。もっと早く出そう、九州産以上に早く出そうと、それが戦略です。高く売るための戦略。そこがまず見えていない。この指標で読み取れるかといったら読み取れない。

【産業振興課】

まず、SNSの取り込みということですが、一般市民の方が見づらいというところが2点いただいたと思います。その点は改正していきたいと思います。市のホームページ等に、そういった梨のポータルサイトがありますよというようなことは掲載をして、市民の皆さんの関心があったら、そちらにも見て行かれるような工夫はしているのですが、それらの他にSNSのような見やすい取組ができたかと考えています。

また、今のイベントの効果ということですが、確かに反省点は上げると多々あるのですが、歌舞伎座でのPR、木挽町広場での呼び込み等では、初めての取組でしたから相当な反省点もありました。でも、その反省点は、非常に今後生かしていけるのではないかと。また、どれだけ契約数、バイヤーさんとの取り引きが数多くできるのかがネックというところがあります。その辺はPRをしていく中で、契約バイヤーさんにもPRを図っていく中で、増やしていくことが手立てになるのかと考えております。

あと、九州産と一緒にしたことによって価格が下がるのは、初夏の猛暑が続いたことで、例年とは違って本来は出荷がずれるべきだったところが、数量が増えて、市場出荷での原理上、単価が低額に設定されてしまったものと聞いております。

【委員】

白井といえば梨です。梨なんかどこを食べてもおいしいというわけではなく、白井の梨は本当においしい、すごく評判が高くて、親戚なんかも非常に喜んでいたという話をとてもよく聞きました。

ただ、この場面で、梨農家の数が158というところで、そもそもの事業効果が高い項目なのかというところ、先ほど工業団地協議会のほうでありましたけれども、協議会だけでも200社を超えているという現状がありますので、またKPIのほうを見ても、例えば市場取引単価が402円を目指しているというところで、3年間で1%にも満たないところを目指すということですか、出荷量についても、3年間で1.7%程度の低いところを目指しているというKPIを採用しなくてはいけないような事業にコストをかけるということ自体が、ちょっと経済合理性とかけ離れてしまっているのかなという感じはします。

【委員】

成果のところ、上が基準値、目標値なのです。下のほうが実際の実績値という形なのですけれども、これを見ると、実際的目標値と基準値の間に大分開きがあって、30

年度に至っては、この③の部分だけが目標値を満たしているような状態になっているということみたいなのですが、この辺というのは、いろいろな経済の事情だとかそのときの状況によってあると思うので、こういう状況だからこういうふうになっているのだというところをもう少し具体的にに入れていただかないと、なかなか、例えば②の援農ボランティアの数ということで、22というところに対して12しかないといったときに、約半分ちょっとしか達成していないのだけれども、これで本当にいいのかどうかというところもあるのかなと見させていただいて思いました。

あと、ホームページの話で、ただ単にアクセス数ということだけではなくて、新規に来た方のアクセス数と、リピーターでどのくらい見ている方がいるのかというところをもう少し分析していただいて、当然新規で取り込むことも大事なのですが、新規で取り込むのとあわせてリピーターも確保していくというところなので、せっかくポータルサイトもつくってPRしていくということなので、そういう分析も検討していただければと思います。

【産業振興課】

管理者がおりますので、そちらにそれが可能なのか、確認して、そういった数値を出していただけるようお願いしてみます。

【委員】

タイ王国への輸出の継続と、モンゴルなど海外への商談会と書いてありますので、こちらのほうの実績というか、こちらでどのような成果が得られたか教えてください。

【産業振興課】

30年度の実績で申し上げますと、期間として9月26日から10月2日にかけて、これは千葉県県の産フェアという県が行った事業に乗ったような形で参加させていただいたものになります。県事業ですので、梨生産者がそちらに出向いたとかそういうことではなく、白井の梨・幸水をタイ王国の県産フェアに出品したというような形での参加になります。数値としては、10玉の200キロと12玉の400キロ分、全部で合わせて600キログラム。10キロ箱にすると60箱というのをその県産フェアに出したという形になります。

【委員】

モンゴルの件で、事業での生産性がこれから見込まれるか見込まれないかというところと、まだ継続中ということでは、今後とも続けていかれるかというのがわかればと思います。

【産業振興課】

モンゴルへの輸出については、平成31年度は実施の予定がありません。

【委員】

結構、私の自宅の周りの梨農家さんが、かなり閉じられているところが最近多くて、あそこの梨も買えなくなっちゃった、ここの梨も買えなくなっちゃったとすごく心配してい

るところではあって、白井の梨ってすごくおいしいし、誰にあげてもすごく喜ばれるし、すごくPRはしやすいのですけれども、ブランド化ということでもし価格が上がったら、市民としては、高くなるのは嫌だなと思ったりもします。

あとは、成果のKPIのところの新規就農者数、就農ボランティア数という数が乗っているのですけれども、出荷量は増えているものの、梨農家の減っている数って多いのではないかなとすごく心配しているところがあって、ブランド力の向上で、後継者担い手確保というところまで持っていきたいというのはわかるのですけれども、その前に梨農家の確保は大変ではないかなという気がしています。

【委員】

まず検索する場合に、「梨、通販」とした場合に、多分検索結果が出ると思うのですが、その際に上位に結果が出るような方策があるとか聞いたことがあるのですが、そういうような対策をとられているのでしょうか。検索して、ずっと後ろのほうに白井が来てもしようがない。大体上のほうから見ていくでしょうから、検索結果の上位に出るようになるような方法を考えているのかどうかという点が1点。

あと、今、2番目の事業の背景、概要の部分でPDCAというと、プランが来て、ドゥーして、チェックしました。その結果として何かおかしければアクションとして改善というところで、新たな販売をすることかということがこの文面では見えてこないもので、その為にはこの結果を受けてどのような販売戦略をしているのか、広報活動をしているのかということ載せておかないと、それが全体的な評価として非常に効果的だったということまで言えないと思いますので、その辺も少し書いておかないといけないかと思います。

あと、人材不足の解消のところ、たまたま白井の梨農家の人で知っている方がいまして、ちょうど1カ月ぐらい前、花が咲いて交配をしなければいけないときに、家の人数だけでは足りないので、アルバイトに近所の家庭の主婦をお願いしようと思っても、どこでも交配をするので人手が集まらないということで、大変苦労していた。ただ、外国の方が来て、ずっと通年では必要ではないので、短期的に必要なときの人材確保ができればありがたいということ言われていたのですが、そういうことも一応組合とかで人を呼んで、そこに派遣するとかという形の仕組みができていれば、農家の方は大変いいと思うのですが、なかなか人が集まらないで夜までやらなければいけないということ言われていたので、そうすると大変重労働だと、子供には継がせたくないというようなことだと、余計梨農家が減ってしまうと思いますので、短期的、集中的に人手が足りない場合の対応を考えてもらえればということ言われていましたので、そこも検討する必要があるのではないかとこのように思いました。

【産業振興課】

まず検索の上位に上がるような工夫ということだったと思いますが、もともとさまざまなネーミングがあった中で、「しろいの梨」というネーミングを商標登録しているという

ところが一つの工夫になるのかなとやってまいりました。

それと、今後の対策について、確かにこの中の表記だけですと足りないというご指摘だと思うのですが、30年度にしろいの梨ブランド化推進計画というものを策定しまして、白井市としてのシティープロモーションも含めたPRを行います。これは地道にやっていたかなければいけないのではないかと思います。あとは、梨狩り農場を体験とか、イメージがアップするような直売所に行って、おいしい梨がここの直売所で買えたとかという、そういった体験的なものが伴ってくると、地道にそのブランド力も上がるのではないかとというご指摘もいただいております。そういったものに向けて、今後取り組んでいかなければいけないのかなというところはあるのですが、やはりこれはお金の時代でしたら、勢いでやるということはできるのですけれども、市もなかなかお金がない、生産者も市川の直売所のように、大きな農園があると思うのですが、そういった農園の直売所のように立派な直売所がすぐできるかという、すぐできるものではないので、今後、個々のセンスと人が寄りたがるような工夫を積み上げて、そういったイメージアップを図っていく必要があると考えています。

また、今まで白井の梨のチラシを箱の中に入れてもらい、農園さんの情報も印字して、箱にプリントしたものを入っていたのですが、そこにポータルサイトのQRコードも合わせて印字して、今後やっというところで、少しずつ地道なものを積み重ねて、少しずつではあるのですが、ブランド力を上げていきたいというところを考えています。

また、これはブランド推進計画のもう一つの内容なのですが、白井市、それから船橋、八千代、鎌ヶ谷、市川、その辺は梨の一大産地になるのですが、比較的少ないのが我孫子とか印西、柏も少ないと思うのです。そういった東葛エリアへの売り込みであったりというところでは、自分たちの足元、近隣への営業も、昨年、柏の駅前で梨を売りに行ったという実績はあるのですが、築地や大田市場ではバイヤーさんには知られているのですけれども、都内の人には知られていないところがあるので、そちらにも勧めていくということを生産者の皆さんにもお願いするという形でPRしていこうと考えております。

【委員】

ネーミングなのではけれども、「しろいの梨」でこの後に行くのか、「梨の白井」で行くのか、前者だと白井の知名度の低さが梨に影響しているのではないのでしょうか。「しろいの梨」では検索しないですね。梨ですね。梨といったときに白井が出てくる。梨を先にすべきかなというネーミングの仕方、梨をPRするのだったら、梨が頭でしょう。夏は果物といえば梨がほとんどですね。だったら、梨といって、その後に白井がくっついてくるほうが、検索でも確率が高いのではないですか。白井じゃ引かないですね。

【会長】

それでは、このブランド化推進事業につきましては、これからも推進していくことについては異論がないということだと思いますけれども、審議会の意見としては、PRする際

にブランド力を上げるということについて言えば、単にPRするというだけではなくて、イベントを開くということだけではなくて、実際に売り込んでいくとかというような地道な作業が必要なんじゃないかということですね。梨のネーミングの仕方についても考えていく必要があるということですね。

それから、KPIの指標を見ましても、経済効率を考えなければいけないだろうということですね。そうすると、積極的な販売を含めた経済効果を考えた施策をやっていかなければいけないのじゃないかということでしたよね。

それから、具体的に言うと、成果のところで援農ボランティアだとか新規就農者が余りにも少ないということで、そこを今後増やしていくとかいうようなことが求められているのではないかということですが、大体そういう感じでよろしいでしょうか。

【産業振興課】

KPIの数値で説明が足らなかったというところがありますので、まず1番については、27年度基準値の単価から実際には下がっているところがあります。これは、先ほども意見いただきましたけれども、茨城の梨であったり九州の梨であったりというようなところで、今、地球が温暖化が進んでいるところ、だんだん梨の産地も北上しているというところがあります。あと生産地が増えているところがあります。千葉県も、茂原であったり一宮のほうであったり、市原はもともと多くなってきているのですが、そういった生産地が増えているところから、なかなか同時期に生産量が多くなりますと、単価には影響してくるという状況が一つあります。豊作の年であったらどうかということもあるのですが、数量的なところに左右されるのが大きいと。

また、2番のほうですが、これは新規就農者、あと援農ボランティア数ということで限った形の数値でありまして、先ほど摘花だとか受粉の作業を人員の確保が大変だということではあるのですが、そういったパートさん、アルバイトさんの数値というのとはまた別な数値になっておりまして、例えば白井にはシルバー人材センターがあるのですが、そちらで梨の作業に当たるパートさん等の研修会等も市の梨業組合が、研修会を開いて手伝いができるような体制づくりはしているのですが、それでもなかなか実際農家さんが求める人が足りないというところがあったり、また、どうしても頼む方の技術力が問われますので、農家さんも技術力の高いパートさんを募集したいというところがあったり、あと、必要なときに手伝いに来てもらえる方を求めるというところもあると聞いております。そういったところで、このジャンルに限った数値ということで、確かに低い数値になっております。

あと、3番の出荷量なのですが、こちらは先ほど梨畑が減っているのに出荷量が増えているのが疑問かなと思うのですが、これは梨生産者の皆さんがそれ相当に努力を重ねております。工夫と努力をして、それで出荷量については減らないで現状維持をしてというところがありますが、これから先は減少に転じる可能性があるというところは示唆できるか

などと思います。

【会長】

その辺はよくわかりますけれども、要は白井の梨というのは、品質自体は高いのだと思うのです。いろいろな委員さんもおっしゃいましたように、おいしいのだと思うのです。ただ、知られていないのです。食べていないのです。そういう面でいうと、売り込んでいくという作業が不十分かなというふうに思います。食べたらおいしいと言うのです。また送ってと言うのです。それはやっぱりおいしいのだろうと。そういう意味ではレベルが高いのだろうと思うのです。ただ、知られているのは船橋の梨なのです。梨といえば船橋になってしまう。だから、いわゆる認知度の問題というか、ブランド力というよりも認知度の問題に差があるのではないかというふうに思います。

【委員】

梨を引いたときに、白井が後ろにくっついてくればいいのです。白井を引いてもだめですから。

梨と引いたときに、船橋と同等に引っ張ってこられるようにしないと。

【会長】

それでは、時間の関係もありますので、議題4に行きたいと思います。

次期まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定方針・スケジュールについて、お願いいたします。

(4) 次期まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定方針・スケジュールについて

(5) 市の人口動向等について

(6) その他

【会長】

次期まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定方針・スケジュール等について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料に沿って説明

【会長】

それでは、時間ですので、以上を持ちまして、平成31年度第1回白井市まち・ひと・しごと創生審議会を閉会します。